

授業にかかわる 関連資料



生徒の実態や体調に合わせて、臥位姿勢や座位保持いすに座っての姿勢など生徒が一番リラックスして見やすい姿勢で取り組めるように工夫しました。



映像に気づきやすい環境設定を心掛けました。
(スクリーンの大きさや角度、投影時間)

生徒が興味をもちやすい楽器の提示を工夫しました。
(くす玉から一気に楽器が飛び出す)



一つの楽器を鳴らす時は、持ち手を工夫し、自分の力で鳴らせるようにしました。

「基礎的な学習の時間」で好きな楽器を選んで買い、それを使って合奏しました。

クリスマスの雰囲気を感じよう

単元名	生活単元学習「ハッピークリスマス」			
児童生徒の実態	<p> 重度の肢体不自由と知的障害を併せ有する中学部1～2年生5名の集団である。障害から、呼吸、体温、睡眠・覚醒、栄養摂取などの生理的基盤の調節や確立が課題であり、医療的ケアを受けながら日常を過ごしている。また、様々な刺激に対して過敏であり、全身に緊張が入りやすい。姿勢を自力で保持することが困難なほか、体幹や四肢の変形が顕著で、座位などの際は特別な椅子や保持具を使用している。以上のことから、体調の観察や活動量の調整に十分な配慮が必要な生徒達である。発達の段階はA～B1段階にある。 </p> <p> 他者からの言葉掛けをある程度理解しイメージ化できる生徒や全身の状態が良いときに他者からのかかわりに対し笑顔になることなどで反応できる力のある生徒がいる。また、不慣れな場所や集団の中では身体や表情を強ばらせ、自分の教室などの慣れた環境ではリラックスできるなど、場所や場面を感じ分ける力がある。 </p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの映像に気付き、注目したり目で追うことができる。 ・楽器の音、楽器に触れていることや触れることで音が出ることに気付くことができる ・2クラス合同のにぎやかな雰囲気を感じ取ることができる。 			
地域学習の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・重度重複障害の生徒が地域で生活を送る中で、緊張しすぎることなく生徒のもてる力を最大限に発揮して、季節のイベント等に参加できる力をいろいろな取組をとおして付けていく。 			
単元計画	次	時	内容	評価の視点
	第一次	4	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの映像を見る。 ・クリスマスソングの歌い掛けを聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の変化に気付くことができる。 ・歌に合わせた指導者からのかかわりを受け止めて、楽しい気持ちを表現できる。
	第二次	4	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの映像を見る。 ・個別に楽器に触れて音を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと映像をとらえることができる。 ・個々の楽器の音に気付き、その気持ちを表現できる。
	第三次	4	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの映像を見る。 ・みんなで一つの楽器の音を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の変化に見通しをもってとらえることができる。 ・みんなで取り組む一体感を感じ取ることができる。
必要な支援及び「基礎的な学習の時間」との連動	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの映像は見ることをねらいに置くために、生徒一人一人の一番見やすい姿勢や位置を考え、車いすに座って見たり、畳で横になって見たり環境設定を配慮した。 ・映像は2回繰り返して見るようにした。一度きりでは理解が難しい生徒が多いため、2回同じ映像を見ることで、生徒なりの見通しや期待感をもてるように配慮した。 ・映像が流れている間の指導者の支援は、姿勢の保持や体調管理、医療的ケアの必要最低限にし、指導者からの刺激を減らすことで、生徒自身の持てる力で視覚的な刺激を受け止められるようにした。 ・サンタクロース役を生徒が担うことで、サンタクロース役の生徒の役割感を育てる配慮をした。またそれ以外の生徒もサンタクロースというシンボルがいることで見通しや期待感につなげた。 ・第二次で使用した個々の楽器は、「基礎的な学習の時間」の一環で行う校外学習で購入した楽器を使用し、楽器への所有感を感じることができる生徒には活動への動機付けにつなげた。 ・第三次の楽器あそびは、ロープに鈴をつけて生徒全員でつながって遊べるように工夫した。生徒や指導者が動かした振動をロープを伝って感じたり、鳴っている鈴の音を聴いたりすることで、にぎやかな集団の雰囲気を感じることができるように配慮した。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次、第三次ともに楽器あそびで使用した曲はゆっくりのテンポから始めて、生徒のタイミングで楽器が鳴らせるようにしたり、ギターのを最小限にして自分が鳴らした楽器の音を聞き取れるようにした。音楽は2～3回繰り返し、テンポを少しずつ上げてにぎやかな楽しい雰囲気も感じられるようにした。 <p>《「基礎的な学習の時間」との連動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外に出て、環境の変化（光、温度変化、風など）を時間をかけてゆっくり受け止め表現する取組 <ul style="list-style-type: none"> ＜暗転・明転の変化、画面の明暗の切り替わりの受け止めや気付き＞ ・感触や温度の違う様々な素材にじっくり触れ、触れていることに気付いたり、快・不快を表現したりする取組 <ul style="list-style-type: none"> ＜楽器に触れる、触れていることに気付く、緊張しすぎずに楽器を触る、自分から手を動かして楽器を鳴らす＞ ・好きな音楽活動を中心とした内容を支えに、いつもと違う少し大きな集団の中で活動する経験を増やす取組 <ul style="list-style-type: none"> ＜2クラス合同のにぎやかな雰囲気を受け止めて活動する＞ ・見やすく視覚環境を設定した中で、興味のある対象（キラキラしたおもちゃや本）に注目したり、目で追ったりすることや、「もう1回」の要求を笑顔や発声で伝える取組 <ul style="list-style-type: none"> ＜集団の中での映像への注目、関心＞ ・カードゲーム等の遊びを通じて、ものの名前や数に対して興味をもつことや、人とやりとりをしながら役立ち感をはぐくむ取組 <ul style="list-style-type: none"> ＜サンタ役を演じる、カレンダーの日付チェック＞
<p style="text-align: center;">成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回同じ学習内容で取り組むことで、活動への見通しや期待感をもつ生徒もいた。 ・回数を重ねてクリスマスの映像を繰り返し見る中で、「この場面は好き」と、その場面になると笑顔を見せる生徒や、生徒本人がとらえやすい映像の時に、追視や注視して場面を選択して見分けようとする生徒もいた。 ・どの生徒にとっても集中したり、楽しめたりと活動の中で力を発揮する場面が作れた。 ・「基礎的な学習の時間」と本単元の取組が関連付けて理解できる生徒は、本単元の取組をより意欲的に取り組む姿が見られた。 ・校外学習で本単元にて使用する楽器を買う取組の中で、地域の福祉サービスを利用し、生活圏内の商業施設で買い物学習ができたことは、地域との間接的なかわりももたらしたとともに、地域で生活する意欲も高めていくことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の見え方により焦点化して取り組む課題に迫るためには、より十分なアセスメントが必要である。 ・映像を見る際に、指導者からの働き掛けを最小限にすることを配慮した。さらにねらいに即した指導者の動きを検討することが必要である。 ・活動に向かいやすい姿勢作り、教材を見せる位置、生徒の反応を待つこと、授業に向かうための体調作りなど、指導者が授業改善の視点に気付く機会ともなった。 ・「基礎的な学習の時間」で買った楽器を授業で使ったのはつながりがあってよかったが、買った楽器は音が小さく、軽いものでとらえにくかった。生徒が持ちやすく、音にも注目しやすい楽器を使ったら気持ちがより高まったのではと考える。 ・肢体不自由クラスは今年度より「基礎的な学習の時間」が新設された。特に重度重複障害の生徒は未分化なところが多く、「基礎的な学習の時間」とその他の各教科等を合わせた指導とのねらいを焦点化しにくいところがある。そのため、「この取組がこの授業のこの場面で生かされた」という直接的な連動としては分かりにくさもある。 ・体調の安定や医療的ケアなどの環境条件が整わないと地域に出ることは難しいが、重度重複障害の生徒にとっての地域学習について、引き続き考えていきたい。